

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立早稲田小学校

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・デジタルドリル端末を効果的に活用し、児童一人ひとりの個別最適な学びを推進する。 ・教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 ・個別最適な学びが「孤立した学び」とならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、児童相互の協働的な学びを推進する。
環境作り		・児童が安心して学校に通えるように、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ・互いに認め励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ・保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・筆圧が弱かったり正しい持ち方ができなかったりして、線が震えたりはみ出たりすることがあるので、整った線で、正しく文字を書く力を身に付けさせる。 ・ひらがなを筆順通りに書くことが定着しておらず、字形が整わないことがあるので、筆順や字のバランスを意識して書けるように指導する。 ・数の合成、分解では、半具体物を操作して考える力を身に付けさせる。	① 字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかける。 ② プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組む。 ③ 半具体物の操作を1時間に1回取り入れたり、操作の仕方を言葉にしたりする。
2 学 年		・筆圧に気を付けて、整った線で、正しく文字を書く力を身に付けさせる。 ・ひらがなや漢字を筆順通りに書くことが定着しておらず、字形が整わないことがあるので、筆順や字のバランスを意識して書けるように指導する。 ・言葉によって、漢字の読み方の使い分けができるように指導する。 ・数の合成、分解や文章問題では、絵や問題中の数字のみを見て考えようとすることがあるので、問題文の意味を理解して考える力を身に付けさせる。	① 文字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかける。 ② プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組む。 ③ なぞり書きや空書きの活動で、筆順やとめ・はね・はらいを繰り返し指導する。 ④ 漢字ドリルで学習した後、デジタルドリルを活用した復習を継続する。 ⑤ 半具体物の操作を1時間に1回取り入れたり、操作の仕方を言葉にしたりする。また問題文を図に表す活動を取り入れる。

3 学 年	・ 作文では、句読点の付け忘れや「は・を・へ」の使い方等、正しく書くことに課題がある。 ・ 考えたことや感じたことを順序だてて分かりやすく伝えることに課題がある。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、国語では「知識・技能」が区平均と同等の正答率で、他の観点・領域は区平均を下回っている。 ・ 算数の文章問題では、与えられた情報を整理して、問われていることに正しく解答できない児童が多い。 ・ 九九などの基本的な計算はほとんどの児童が身に付いているが、まだ定着していない児童も少数いる。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、算数では「知識・技能」「図形」「データの活用」が区平均を下回っている。	・ 順番を意識した文章を書けるように指導する。 ・ 主語と述語の関係や、話型や文型の指導をする。 ・ 考えたことや思ったことを言葉で表現することへの苦手意識をなくせるようにする。 ・ 問題文に書かれている情報を整理し、考える力を身に付けさせる。 ・ 小数の計算、筆算等、既習事項の積み重ねが大切な学習が続くので、基本的な四則計算の定着させる。	① 短作文や日記を毎週書かせることで、論理だてて文章を書けるように指導する。 ② スピーチや簡単な質疑応答の練習を行う。 ③ ペアでの話し合い活動を取り入れ、話を聞く時のポイントを押さえたり、相手に伝える話し方を知ったりする。 ④ 文章問題で分かっていること、問われていることに下線を引いて確認する。 ⑤ デジタルドリルや「ククハチジュウイチ」等のアプリを使用し、楽しみながら学習できる環境をつくる。
4 学 年	・ 自分と比べて読んだり、考えたりすることに課題がある。 ・ 相手の話を最後まで聞くことが苦手である。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、国語では「知識・技能」「思考・判断・表現」共に、区	・ 文章の理解に加え、自分の経験と照らし合わせ、想像することができるよう指導する。 ・ 話をする内容の精査及び、話を集中して聞くための姿勢を指導する。	① 登場人物の気持ちが表れている箇所に線を引かせ、どのような気持ちか具体的に想像させる。 ② 話す人の方を見ながら、話の中心に気を付けて聞く態度を身に付けられるよう、日常的に繰り返し声を掛ける。

	平均とほぼ同等の正答率である。 ・ 定規やコンパスの使い方がまだ定着していない児童がいる。 ・ 基本的な計算を苦手とする児童がいる。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、算数では「測定」のみ区平均を上回っており、他の項目は課題である。	・ 繰り返し練習させて、正確に書いたり、解いたりすることができるように指導する。	③ 作図の学習に向けて、日常的に定規を使用して線を引く。 ④ 九九の定着が遅れている児童に対して、デジタルドリルを使って繰り返し練習に取り組ませ、定着を図るようにする。
5 学 年	・ 既習の漢字を日常や作文等で活用できていない。 ・ 物語を読み取ることに關して、登場人物の行動や気持ちなど想像を膨らませることに課題がある。 ・ 自分の気持ちや考えを文章で書き表すことに課題がある。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、国語は、全ての観点・領域で区平均を上回っている。 ・ 繰り上がりのあるたし算が全体的に苦手な傾向にある。 ・ かけ算九九を定着させるため、引き続き練習が必要である。 ・ 新宿区学力調査の結果、算数「思考・判断・表現」の正答率が区平均を下回っている。	・ 日頃からすすんで漢字を使おうとする態度を育てる必要がある。 ・ 登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に想像を膨らませて物語を読み取る力を育成する。 ・ 経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表す力の育成が必要である。 ・ 繰り返し練習問題に取り組む等、計算の基礎・基本を正しく理解し、正確に計算できる力を付けさせる。 ・ 基礎・基本に加え、思考力を高める問題にも継続して取り組ませる必要がある。	① 日記や振り返りを書かせる中で、学習した漢字を活用することを指導する。 ② 読んだ文章の感想交流を行うことで、多様な感じ方や捉え方があることに気付かせて、想像につなげる。 ③ 日記や振り返りを書かせて、自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。 ④ 基礎的な計算練習、思考力を高める練習問題を定期的に行う。 ⑤ 計算ドリルとデジタルドリルを併用し、基礎・基本の力を定着させる。 ⑥ 課題に取り組む際、既出の情報や問われていることを正しく認識して、問題に取り組ませる。
6 学 年	・ 事実と意見、具体と抽象、などを区別して読むことや、場に応じて文を書き分けることなど、意識できてないことが多い。	・ 事実と意見、具体と抽象の理解を深めながら、それを生かして書くことができるように指導する必要がある。	① 文章を書く際は、読む相手を意識して書かせることで、場に応じた文章が書けるようにする。 ② 国語や社会、総合的な学習の時間などで調べ学習を行

	・ 新宿区学力定着度調査の結果、「話すこと・聞くこと」の領域を除いて、区平均を上回っており、学習が定着していることが伺える。 ・ 分数、小数の計算において、計算の仕方は概ね理解しているが、小数点の位置や繰り上がり、約分などのケアレスミスが多い。 ・ 文章題の立式を間違えることが多く、何を計算で求めるかが理解できていない児童が多い。 ・ 新宿区学力定着度調査の結果、「データの活用」の領域を除いて、区平均を上回っており、学習が定着していることが伺える。	・ 計算の順序を意識させて、基礎・基本の力を大切に育てていく。 ・ 論理的に考える力を付けるために、文章を一つ一つ大切に読みんで情報を整理する指導をする。	う際、事実と意見を分けて書く指導を行う。 ③ 少人数指導の際、習熟度に応じた問題に取り組ませる。 ④ 紙の計算ドリルやデジタルドリルで繰り返し計算問題の練習をしたり、個に応じた学習に取り組ませたりする。 ⑤ 問題の読み方を指導し、何を求めるかを意識させる。数直線や図を用いて、根拠をもって立式させる。
--	---	--	---